

ラフト&パイル工法

日本建設技術(株)が説明会

林本部長が特長など解説



挨拶する原裕社長



発行所

株式会社 建設新聞社

〒849-0301

小城市牛津町乙柳1145-7

TEL 0952-66-5750 (代)

FAX 0952-66-5751

購読料 月額5,775円(税込)

社団法人日本専門新聞協会会員

ホームページ

http://www.kensetsunews.co.jp

e-mailアドレス

kssaga@lime.ocn.ne.jp

間伐材を多用する有効性などを解説する林重徳・統括本部長



日本建設技術(株) (唐津市北波多、原裕社長) は8日、間伐材を多用して軟弱地盤を補強する「ラフト&パイル工法」の技術説明会と現場見学会を開催した。県の関係者をはじめ、土木特A企業やコンサルタント会社などから約150人が参加。林重徳・技術戦略本部長(統括本部長)が同工法の特長などを説明した。

同工法は、軟弱地盤域における堤防や海岸護岸の盛土基礎、建築構造物の基礎として、間伐材を多用して軟弱地盤を補強する技術。これまで佐賀の佐賀県で間伐材を多用する有効性や、地下水位以下に保持されれば、樹種に関係なく木材は非常に高い耐久性があることなどを工法の特長として挙げた。また、

型建設機械が不要であるため、一定の技術力をもった地場業者の参加が可能であることを報告し、調査・設計・施工マニユアの整備、積算

技術説明会で林本部長は、大幅な二酸化炭素削減の必要性など、同工法を開発した背景を説明した上で、人工林率日本一の佐賀県で間伐材を多用する有効性や、地下水位以下に保持されれば、樹種に関係なく木材は非常に高い耐久性があることなどを工法の特長として挙げた。また、

資料の作成などが今後の課題だと説明した。現場試験施工は、有明佐賀空港南側の県有地(佐賀市川副町)で実施しており、建築構造物の基礎を想定してタテ・ヨコ約12畳四方に同工法を施工し、高さ約4畳の盛土を設置して地盤の沈下量や水平変位などを調査する。現場見学会では、企画開発戦略本部の松尾保成水環境・材料研究室

現場試験施工を見学する参加者



長が施工状況などを説明し、参加者の質問に応じた。

&パイル工法協会を立ち上げ、林業と建設業のコラボ(林建協働)を促進させるための環境負荷低減工法を提案していきたい」と話した。